

文学博士平川彰君、文学博士平井俊榮君、袴谷憲昭君、

吉津宜英君および高橋壯君の『阿毘達磨俱舍論索引』

(共同研究) に対する授賞審査要旨

俱舍論は唯識論と共に仏教の基本的教理の書として古来重要視せられた。世親 (Vasubandhu) によって Abhidharmaśāstra である dharmakośabhāṣya が著わされるや、複雑な阿毘達磨教義の精粹を巧みにまとめたものとして学者に重んぜられ、インドで多数の註釈が書かれた。本書がシナに伝えられると、西暦五六三―七七年、真谛によって『阿毘達磨俱舍論』(二二卷)として漢訳せられ、さらに六五―四年、玄奘によって『阿毘達磨俱舍論』(三〇卷)として翻訳せられた。前者を旧俱舎とよぶ。旧俱舎に対する註釈は失われたが、玄奘訳には普光と法宝の著名な疏が現存している。日本には奈良朝時代に輸入せられ、南都六宗の一「俱舎宗」として研究せられ、多数の註釈書があらわれた。近代のものとして旭雅の『冠導俱舎論』が広く用いられ、L. de la Vallée Poussin による玄奘訳のフランス語訳 L'Abhidharmaśāstra de Vasubandhu, 6 vols., 1923-31 はこの旭雅本の註記に負うところが多し。

俱舎論にはテキスト訳もあり、Jinamitra, Dpal brtsags の翻訳として、北京版西藏大蔵経総目録(大谷大学研究会編輯、昭和三十六年)に No. 5591 として、またデルゲ版総目録(東北大学法文学部編、昭和九年)に No. 4090 として、それぞれ登録せられている。

このように俱舍論には数種の翻訳があり、それぞれに色々の註釈もできたが、世親の原文サンスクリットのテキストは、久しく見失われ、近年に至って漸く回収せられた。即ち昭和一〇年（一九三五）Rānula Sāṅkṛtyāna がチベットの Nor の寺院で俱舍論本頌及び世親釈の写本を発見したのがそれである。ついで昭和二十一年 V. V. Gokhale によって本頌が校訂出版せられ、さらに昭和四十二年ブラダンによって本頌を含めた釈論の全文が刊行せられた (Abhidharmakośabhāṣya of Vasubandhu edited by P. Pradhan, Patna 1967)。

原典の発見とその出版は、研究の進歩に対する跳躍板である。これによってわれわれは各種の翻訳の正否を定め、疑点を解決することができる。併し原典自体にも、この種の写本に有りがちな誤写、脱落、錯簡などが見られ、反って翻訳によって誤りの修正を行う必要がしばしば感ぜられる。ことに俱舍論原典のように、唯一種の写本より他に写本が回収せられていない場合には、その感が深い。かくして各種の翻訳の比較が問題とならざるをえない。

さて標題の『俱舍論索引』(三卷)は、かような比較研究の基礎として、サンスクリット原典、漢訳、チベット訳の全体にわたって、一切の語彙の対照を企てた著作である。著者はそのために用語の総体を六万枚のカードに分記し、これをアルファベット順、五十音順に調べ、それぞれに相当の訳語或いは原語を配して、次の三卷にまとめている。

- 1) Index to the Abhidharmakośabhāṣya, Part One, Sanskrit-Tibetan-Chinese, pp. XXXXIV, 437, Tokyo 1973. サンスクリット本はブラダンの出版、チベット訳は大谷大学監修影印西藏大藏經 No. 5591、漢

訳は大正新修大藏經第二九卷所収玄奘訳阿毘達磨俱舍論と真諦訳阿毘達磨俱舍論の両種を用いる。巻頭に著者平川君の俱舍論に対する明快な英文の解題四四頁が附せられ、巻末にサンスクリット原典に出る経論名・阿

闍梨名とその所在が記され又、プラダマン本の正誤表が附せられている。

- 2) Index to the Abhidharmakośabhāṣya, Part Two, Chinese-Sanskrit, pp. VIII, 504, Tokyo 1977. 用のテキストは第一巻と同じ。巻末に総画索引と拼音索引を附す。

- 3) Index to the Abhidharmakośabhāṣya, Part Three, Tibetan-Sanskrit, pp. VI, 380, Tokyo 1978. 使用のテキストは第一巻のそれに等しいが、北京版の誤りをデルゲ版によって正し、また兩版の綴りに相違ある場合は、その違いがわかるようになっている。巻末に

(一) P. Pradhan edition of the Abhidharmakośabhāṣya

(二) S. D. Shastri edition of the Abhidharmakośabhāṣya (Bauddha Bharati Series, 5, 6, 7, 9)

(三) 真諦訳阿毘達磨俱舍論 (大正藏經)

(四) 玄奘訳阿毘達磨俱舍論 (大正藏經)

(五) 冠導阿毘達磨俱舍論

(六) 北京版西蔵々経俱舍論

(七) デルゲ版西蔵々経俱舍論

の七種のテキストの Concordance が附せられ、Addenda としてサンスクリット語彙の複合詞における首語以外の語の索引及びプラダマンのテキストの正誤表の補足を掲げる。そして最後に本索引前二巻の Corrigenda を添えている。

俱舍論についてはさきに舟橋水哉氏編同一哉氏増補の『冠導本俱舍論索引』（昭和二五年）があつて、學者に便益を与えた。併しそれは単に玄奘訳旭雅本の漢訳の一種に限られた謄写版の索引であつて、今回の周到精密なそれに比せらるべくもない。平川君の主宰する新索引は、著者の仏教学に対する高度の知識を基礎に、俱舍論の原典翻訳相互間の語彙の相違、存欠を明らかに示して、独り俱舍論研究の進展に寄与するばかりでなく、今日原典の失われた翻訳仏典の原語の想定にも貢献する所大である。殊に漢訳仏典における真諦・玄奘の業績の広博と、俱舍論そのものの仏教教学に占める位置の重要性を考慮に加えれば、本書の成果は唯に日本の現在及び将来の仏教学研究に寄与するばかりでなく、海外のそれに対しても、長足の進歩を促すものと期待せられる。